

ソ 聯 の 印 象

片 岡 み ど り

この度、日本婦人対外文化交流連合会の文化使節の使命をもって、20名のメンバーの一員として訪ソの機会を得た事は、いろいろの意味に於いて得る所が多く、又、私には生涯忘れる事の出来ない楽しい旅行でもありました。僅か20日余の短い旅行で、おそらく私共は日本の60倍もある様な大自然につつまれたソ連の大地の、ほんの僅かな事しか知る事は出来なかったとは思いますが、日頃仕事に追い廻されて明け暮れ、自然に親しむ事も少く、日本を離れて遠くから自らをみつめ、反省するいい機会も与えられ、生き返った様な新鮮な気持で帰って参りました。

丁度時期が、音楽のシーズンオフでもあり、モスクワ始め各地の音楽学校も休暇中で、教育機関の視察や演奏会も、それほど度々聴く事は出来なかったのですが、雪どけのなぞの国と言われるソ連に来て、初めて私は想像もしなかった数多くの素晴らしい事実をどれほど目のあたりに見、聞き、且つ肌で感じた事かわかりません。今まで日本を訪れたソ連の偉大な作曲家や演奏家のすべてが、どの様にして基礎が培われてきたか今まで知るよしもなかったのですが、私はハバロフスクから乗ったソ連御自慢の TU114 ターボプロップのジェット機から、限らない広大なソ連の国土を幾時間も見降ろしたり、又モスクワ、レニングラード、キエフ等到着所に、ポプラ、白樺、リンデンバウム、リャビーナ等の茂る雄大な美しい自然の森や、日本の一年中の花が一度に咲きみだれる夢の様な公園の中をさまよいてみて、初めて自然に対する無限の親しみを感じ、又そこに夢や幻想の世界がおのずと湧き出て、身も心も一度に洗い浄められた思いが致しました。ロシア人は生れながら声帯もよく、飛行場に花束をもって出迎えてくれた婦人委員会の人達や、私共の通訳として来ていただいたブラウダの記者の方達と御一緒に乗ったバスの中で聞かせてくれたロシア民謡でもとても素晴らしく、しかも何気なくちずさんだ歌が、いつの間にか二部合唱、三部合唱となり、自然に音楽が身について、生活と音楽とが切り離せない事になっているのを感じ、羨ましくも思われました。そして思いのほかこの国の飾り気のない、素朴な国民性

と、すべてに堅実的でたゆみない努力を積み重ね、その日進月歩ぶりの発展性に心を打たれる事が多かったです。

私共一行の中、音楽関係は、桐朋学園の井口愛子先生と、松岡貞子先生の3人だけで、モスクワに着くと同時に、ぎっしりと詰まったスケジュールと、連日のレセプションとに緊張の連続で随分気疲れも致しましたが、ソ連在住の日本の商社の方達からも言われたのですが、いまだかつてないほどの歓迎ぶりだったらしく、その厚情にもまず感謝せねばなりません。ソ連婦人委員会の事務書記長、フェョドロワ夫人の堂々とした風貌の中にも、モナリザの様な微笑と、やさしい理知的な魅力あるまなざしで私達を抱擁する様に語られたあの友情あふれるスピーチは、未だに私の脳裏に焼きついて忘れられないものとなっております。そのレセプションには、事務局長、教育長はじめ、すべてソ連夫人の一流の人達が集まり、中には、第二次世界大戦に参加し860回 出撃して英雄金星章をもった女流飛行士とか、作曲家のニーナ・マカロワ夫人（ハチャトリアン夫人）、医学権威者、食料研究者、チョコレート工場長等、それぞれソ連婦人委員会に貢献し、婦人向上に力を注いでおられる方ばかりで、特に子供の教育、健康については、ソ連婦人達が国をあげて協力している事がうかがわれました。その一例として、6才から15才までの子供は、労働者でも、俳優、学者、芸術家、教師の子供でも誰でもが、夏休み1ヶ月近く費用を国が補助して、ピョニールキャンプに参加させ、団体教育を徹底しておりました。私共も、あちこちの郊外のピョニールキャンプに招待され、のんびり大自然の林の中で、自然に親しみながら楽しく、あらゆる分野の体験をして、しかも規律正しい団体教育に励んでいる小さな子供達を見ておきますと、ふと試験地獄に追われ、視野の狭い日本の子供達の事を想い出し、何かやるせない気持になり、根本的な教育方針について深く考えさせられました。

又、私共3人は、ソ連作曲家同盟クラブの御招待も頂き、ニーナ・マカロワ・ハチャトリアン夫人始め、作曲家や、音楽学者、批評家、音楽記者達の温かい厚

ソ 聯 の 印 象

意ある歓待を受け、いろいろ現代の若いソ連のピアニストの活躍ぶりや、作曲家の人達について有益なお話を伺う事が出来、ハチャトリアン夫人の自作ピアノ曲「夢」「ノクターン」等も聞かせて頂き、心から楽しい一日を過しました。

翌日は、ハチャトリアン御夫妻が御自宅にお招き下さって、私共の訪ソを心からお喜び頂き、先年チャイ



コフスキーコンクールで優勝した、まだ若いナターシャ・シャホフスカヤ夫人のチェロ（アザアミンタエフさんのピアノ伴奏）で、ハチャトリアン作曲、ラブソディーを弾いていらっしゃるそのレッスンも特別に見せて頂く事が出来ました。この御二人は、近日中ギリシャ方面に演奏旅行に出かけられるとかで、その美しい音色とテクニック、又アンサンブルの美しさにすっ



かり感激致しました。その後、ハチャトリアン氏はソ連の音楽状態や、私共の質問にも細かく御指導頂き、又ピアノに向って、自作の小品の数々を弾いて下さって、私には、かねて好きな曲の一つであるトッカータの楽譜をサイン入りで下さったり、御夫妻の大きなお写真を記念に頂いたり、二年前に来日された時のアルバム等見せて頂いて、なごやかな雰囲気の中に、どんな些細な事でも私共の願いを快よく受け入れて、出来る限りの尽力をも惜しまない、そのおやさしいまなざしに、本当にソ連を訪れたよろこびを、一人身にしみ感じた事とございました。

その他コンセルヴァトワールのスヴェニシコフ校長にもお目にかかり、音楽院の内部も御案内して頂き、学校の教育方針、システム、又教授陣の内容等、具体的に説明して下さい、特に日本からの留学生の問題についても、大変厚意ある御返答を頂き、いろいろ勉強になる事が多うございました。又ここで勉強されている唯一の日本人である15才のヴァイオリニストの佐藤陽子ちゃんと、そのお母様にも大変お世話になり、毎日の様に私共のホテルに来て頂いたり、コンセルヴァトワールの近くの彼女達のアパートに伺ったり、楽譜屋やレコード屋にもよくついて行って頂きました。陽子ちゃんは、近い内日本での演奏会の為、コーガン氏、フレニコフ氏と共に帰国される筈ですが、その才能は、ソ連でも広く認められ、学校内でも特別待遇の様で、「ヨウコ、ヨウコ」と可愛いがられておられました。私共は、日本での彼女の素晴らしい演奏を大いに期待し、再会を約してモスクワを去りました。

（註）此の一行は昭和40年10月から11月にかけて来日、各地で演奏を行った（編集委員）

尚、その後、私は一行と別れ欧州に立寄り、ザルツブルグの音楽祭にも参り、又ソ連では味わえなかった本場のモーツァルトの素晴らしい演奏会を連日聴く事が出来ました。日本を離れてみて、諸外国の長所欠点等感じた事が多うございましたが、日本人も絶えず積極性を持ち、音楽芸術への永久の熱情と、深い研鑽をもって邁進するならば、必ず若い日本の芸術家ももっともっと活躍出来る日も近い将来にあるのではないかと痛感致しました。

（本学教授—ピアノ）